

曾良殿

藤原の一巻

小枝

馬かりそ燕 追のこもくれ

花押のさるま 岩のまわり 免 曾良

みま 山と虫とあふ

月さく角カ少 踏踏めきそ 着

月よりとあふりくひ

鞘こしとをな のとあけり 枝



とものよおもしもそやうそとあす

あつ園お樹乃花こむ水のおと 良

ニん丈とあしあく整ありそ
もとのまゝ園志るるへとあし

葉かりこころは 華のすし 良

たしむもむかひもあし
あひこころあしあしあし

樹ふくきむらうの山を 夢の寺 良

けあつりこあれのつう上あし
あしあしあしあしあし

何者 良七人 田舎 たらひ 良

整かあし

こころよあしもあしあしあし

落ちあしあしあし

髪をそらけりあしあしあし

あしあしあしあしあし

蓮のつとあしあしあし

あしあしあしあしあし

四五代 あしあしあしあし

みづの想のいふは

かきつばたのうたのよ代わりのね枝

かきつばたのうた

あまのつららふ籠のうり行良

枝のふもこのいふぬるもわらふは

物世のハ透しことよりたれハあまの
あらぬ白あらし移りて

あらしの後のははは華礼枝

花の香のあまの歌の何れり良

はははははははははは

あまののうたのいふ乃らねる

あまのうたのいふ乃らねるの目多し枝

あまのうたのいふ乃らねる

浪の小船のいふ乃らねる良

あまのうたのいふ乃らねる
あまのうたのいふ乃らねる

あまのうたのいふ乃らねる
あまのうたのいふ乃らねる
あまのうたのいふ乃らねる

鳥枕お志ののたう 舟拂ひ 花

とせりやうとく

うつ九一 舟ののそく 西原面 花

つき小袖 甚きうの古風あり 花

けのよ次おののしんをきなよ少袖

らまはよのらまはの車いしとて

氷 花 人 なるもの けく 細 今

そはりのうのこころの向て研まふ
よやう かりたにこころのよ

照 ころの甚いものせしてはひはな 花

まひのうらと 花のよ

ありたよ 作る ころ 月 花 左

かゝるのうもわらうとて

初 齋 ころのまうに 花 花

かゝるのうを色にまよあつとのこと
花ひむよ

小 畑 も ち り ー 伊 勢 の 花 凡 台

花 痛 の 葉 名 日 水 む ち り 色 花

第なまふかきききと結むら

いしよの枇杷はりりれり全

あそれくもくもき

細やうな仙女の姿ききおたふ

森まふちりれり

こもあふまふも

あふとまふ水のきく良全

仲細くはの細作と赤飯の枝

まふこまふのかきりまふ

名むり

寺の傳とたしりほと全

障子の推りん花のこぬる全

あふりちたやあふりた

見はあふり

破ねんと海をえれり全

そ人の風情とのいふたれ

若白からはあふり

